

令和元年度 第2回富田林市金剛地区再生指針推進協議会（書面開催）  
「会議録」

□会議開催概要

会議名	令和元年度 第2回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 ※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一堂に会しての会議は中止し、書面開催とした。
開催内容	会議資料を送付し、情報共有するとともに、お気づきの点、ご意見、及び助言等を、「ご意見等記入シート」により提出いただいた。
日程	・会議資料等送付：令和2年3月18日（水） ・意見等提出期限：令和2年3月27日（金）
回答数	17名（協議会委員数：17名）
その他	いただいたご意見等に対しては、個別にコメント等はせず、次回協議会において、あらためて議論いただくこととする。

1. 議事

(1) 金剛地区まちづくり会議の組織体制について…(資料1)

・方向性として、無理に部会の組織化は図らず、取組テーマ沿って進められる各プロジェクトの活発化に重点をおいた組織体制に移行することについては、概ね賛同いただいた。

・まちづくり会議(全体会)の今後の運営については、将来的に事務局機能は、参加者(地区住民等)が主体となって担うことが望まれる一方で、現状では、意識や主体性が成熟していない段階であり、当面の間、行政のかかわりは必要であるとのご意見をいただきました。

(意見1)

・資料に記載のとおり、今後は会議の事務局機能は、市から独立して自立することが望まれる。ただし、事務局の運営費用の財源をどう確保するかを議論しておくことが求められる。また、活動への助成や支援に対する予算案の計画とその実行に関しても、各プロジェクトで収支予算計画を立案するなど、様々な準備を進めておくことも求められる。

(意見2)

・「今後目指すべき方向性(資料P8)」は、まちづくり会議を立ち上げた経緯と性格上、事務局体制への市の関与は不可欠。

(意見3)

・公園活用は、他の部門(テーマ)に比較して具体的に目に見える活動課題が探りあてられていない気がしている。

・まちづくり会議で金剛中央公園の具体的な計画案が提案されたり、市が「あり方検討調査(資料3)」

を進めたりする中で、それらの案・計画を市民とともに考え、広める場を作り出すことが課題であると考える。

・公園整備もボランティア活動として発展させられればと思うが、活動推進のエンジンの部分(人材)が必要な中、自身のスタンスは「できるだけ協力」であるので、その点でも悩ましさを感じている。

#### (意見4)

・組織化することが目的ではないはずなので、むしろ組織がなくても議論できる体制や環境が整っていることが重要。

#### (意見5)

・「今後目指すべき方向性」に賛同する。既にそれぞれテーマ別のプロジェクトが自発的に推進されており、地区の有志の方々に徐々にシフトしていくのがベターと考える。ただ、各プロジェクトの全体調整(全体会のリーダー)を担う方の負担が危惧される。

#### (意見6)

・商売をしている人等、土曜日に出席しにくい人もおられると考えられるので、毎回とは言わないが、時々平日の夕方などに会議を開催することを希望する。

・各部会について、必要に応じて組織化することには大賛成。

#### (意見7)

・各部会(プロジェクト)が自主運営をしていくための体制へとシフトしていくことが必要。また各部会(プロジェクト)間で情報共有ができる場やツールがあれば、相互協力による発展もあるのではないかな。

・会議の場をオープンにし、傍聴してもらえスペースを作ることで様々な人に何をしているか知ってもらい、うまくいけば参加者・協力者の増加につながるのではないかな。

#### (意見8)

・今後、住民主体としての運営が必要とされるため、参加者皆で決めた既存4部会のテーマを存続させることは、当初より参加している住民の意見を継続させるうえで賛成。

・課題となる「運営のあり方」に関しては、これも住民主体として、まちづくり会議(全体会)での議題として取り上げ、会議参加者で今後どう進めていくかを検討してはどうか。

・市が事務局機能を継続できる令和3年度までのあと2年間しかないことを踏まえても、既存のプロジェクトで活動している方たちの積極的な力を借りる事となるような気がするが、住民自体が納得して活動しなければ継続が困難であると考ええる。

#### (意見9)

・既存部会の内、公園活用は総合まちづくりに発展統合されたが、総合まちづくりは、どちらかという全体計画やマスタープラン的なものに考えが向いており、本来公園部会が目指していた利用の活性化や施設整備の面からは離れていると感じている。

・居場所づくりは情報発信と合わせ拠点づくり情報発信PJに発展している。このことを踏まえ、随時各テーマの取組内容を整理し、入れ替えが出来るようにすることを提案する。

#### (意見10)

・金剛地区の再生は、民間投資を呼び込むことが重要で、地区内外の民間事業者、活動団体、人材などと連携しながら行うことが重要である。

・その際には、行政、UR、民間事業者、NPO等の活動団体(地域活動団体を含む)、地元住民の各代表で構成する「推進組織」が必要になると考える。

・その際、金剛地区まちづくり会議は、市の支援・指導の下、下記①②を実施しながら、③④⑤の役割を担い、また上記推進組織における「地元住民」の枠を担うものと考えている。

①講座、フォーラム等により、地元住民等のまちづくり意識、知識、コミュニティ力等を高める。

②イベント、社会実験等を活用しながら、まちづくりへの参加意識を高める。

③内発的なまちづくり活動を企画・実践し、発信していく(自らが行える力を培っていく)。

④情報共有と緩やかな合意形成を図っていく。

⑤地域活動に必要な補助金申請・執行の主体を担う。

・今後のまちづくりの具体的な取り組み内容が定まっておらず、また、まちづくり会議の実態は、まだまだ上記を実施できるに至っていない状態である。

・17000人規模の地区再生をどのようなシナリオで進めるのか、市さえもわかっていない状態で地域に任せるのは時期尚早である。当面は、市が事務局を担いつつ「取り組むべき目標を明確にする。地元を育てる、参加意識を高める」という認識が必要である。

・まずは、地区全体で方向性を(具体の取り組み内容)を共有し、さらにまちづくり会議が上記役割を担えるよう、先進的な知見のもと、育成するとともに、参加意識・主体性を高めていく必要がある。地元だけで、地域住民を引っ張っていけるだけの参加意識の高まりや、核となる地域住民自らが、自らの役割・責任を自覚できていない段階なので、今市が事務局を外れると空中分解してしまうことが危惧される。

・当面の運営については、提案していただいているプロジェクトを核としたものでよい。今後、上記推進組織への参加、補助金申請・執行等を行う際には、規約等を定めた組織化が必要と考える。

## (2)金剛地区再生指針推進の取組について(令和元年度下半期)・・・(資料2)

住民主体の取組に対する賛同や応援の声とともに、更なる発展に向けての提案やアドバイスをいただきました。

### (意見1)

・以前に実施した、寺池公園の里山整備体験が強く印象に残っている。昨年開催した勉強会で増田会長に紹介いただいた「堺自然ふれあいの森」や「安満遺跡公園」などの事例を踏まえ、そのような活動が進めば良いと思う。

### (意見2)

・まちづくりサポーター育成講座のように、講座受講をきっかけにまちづくりに興味を持ち、自分たちが何をしたいかを考え、プレイヤーとなっていく人たちの育成を、様々な分野で進めていくことが必要。

### (意見3)

・居場所づくりの取組については、(ステークホルダーとして)可能な範囲で協力したい。市においても事業継続のための助成金・補助金等、新たな制度についてもぜひご検討いただきたい。

#### (意見4)

・銀座街商店街の空き店舗の活用を視野に入れた居場所づくりについては、資金面の心配もあるが、年配の方だけでなく、すべての世代の方が活用できる居場所になることを期待する。

例) 子ども食堂、DIY教室、子育ての相談や意見交換の場など。

・以前から、銀座街商店街前広場で防災訓練(消火器・AEDの使用法等)を実施したいと考えているが、なかなか実現していない。商店会だけでも行えるが、寺池台のみならず、金剛地区全体、まちづくり会議全体を巻き込んで行いたい。

・現在は、コロナウィルスの影響で人が集まることが困難であるが、終息するまでの時間に何らかの防災の準備はできるのでは。

#### (意見5)

・マルシェの出店者や買い物客の減少について、月1回の開催回数を見直すことや、イベントと抱き合わせて、特別感を演出してはどうか。

・まちづくりサポーター育成講座について、公園づくりが継続するのであれば、次の段階では、例えば「子どもと親が遊べる公園づくり」や「公園のできるイベント企画」など具体的な題の講座とすれば目的を持った参加がしやすいのではないか。

#### (意見6)

・部会(取組テーマ)ごとに既存のイベントを継続できていること、プロジェクトとして新たなイベントを実行に移していることが素晴らしい。活動するためには大変大きな力が必要となる中、中心になって活動しておられる住民の方々のご尽力に感謝する。この力が少しでも多くの住民の賛同を得て、大きな力になっていけることを期待したい。

#### (意見7)

・再生指針は、まちづくり会議で起きている動きを、指針に掲げる取組項目とひもづけすることで、活動しやすくしている点に意味があると思う。

#### (意見8)

・それぞれのテーマにおいて、様々に試行錯誤されている様子がうかがえる。今後はまちづくり会議(全体会)において、より一層のそれぞれの連携が強まり、有機的に機能していくことを期待する。

#### (意見9)

・寺池公園をフィールドとした「まちづくりサポーター育成講座」は大変有意義であった。地域住民が何人くらい集まれば、どれくらいの作業(伐採)ができるかが実感でき、達成感もあった。

・寺池公園は、水辺がいかされておらず、治安上からもほとんど使われていないのが課題である。

・大人から子どもまで多くの方を集めて、水辺を望める空間づくりを計画・開拓するプロジェクトを立ち上げたい。プロジェクトでは、計画づくり、関係者調整、資金確保、開拓イベント等を企画し、多くの方の参加のもとで実施し、まちづくり意識、知識、コミュニティ力、参加意識を高めていきたい。

### (3) 中・長期的なまちづくりの展望について・・・(資料3)

あり方検討調査業においては、まちづくり会議の他、様々な世代、立場の人の意見を幅広く伺う場を設定し、意見を踏まえて構想をとりまとめることが必要、とのご意見を多数いただきました。

#### (意見1)

・地域住民等との意見交換に際しては、まちづくり会議の場を大いに活用できればと思う。

#### (意見2)

・まちづくりは、ハード面・ソフト面との絡みで、常に「あり方検討調査業務」と連携して進める必要がある。

・「利活用プラン」にかかわる意見交換の場は、まちづくり会議(全体会)にこだわらず、臨機応変に設定し、個別の意見も伺うべき。

・「あり方検討調査」は、今後のまちづくりに大きな影響を与えるため、市民の声を幅広く反映させることが大切。「利活用プラン設定」～「構想の取りまとめ」に関し、まちづくり会議や推進協議会と意見交換したり助言を受けたりする場は、可能な限り多く開催する必要がある(まちづくり会議で共有した「金剛中央公園整備計画案」を無にしないためにも)。

#### (意見3)

・新型コロナウイルスの関係で、十分に概要説明を聞くことができず、残念である。コロナ問題は、社会のあり方が問い直されるような重大事態だと思うので、事態の経過もみながら考えてみたい。

#### (意見4)

・高齢化が進む中、一か所に大きな複合施設ができたとき、車などの移動手段がない高齢者や幼児連れの親子が利用できるのかといった視点も踏まえた計画が必要。

・小さくても、日常的に利用しやすい環境の施設が、各小学校区に1か所ずつあるといった視点での検討も必要。

#### (意見5)

・特に実現可能性の視点を持ったプランとなるよう検討されたい。

#### (意見6)

・中・長期的なまちづくりに関しては、UR都市機構は切り離せない問題である。

・旧公設市場跡やUR賃貸住宅、分譲団地、いずれも再生が急がれる。旧公設市場、UR賃貸住宅(206棟・207棟)周辺を高層に建て替え、低層階に店舗、中層階に介護施設、高層階を住居にする等、思い切った活用プランを望む。

#### (意見7)

・金剛地区の高齢化が進む中、若い世代の転入も見込めるようなまちづくりを中長期的に検討してほしい。住民との意見交換においても、偏った世代の参加とならず、様々な世代の意見を取り入れた構想が必要。また、会議に参加できない方の意見も取り入れられるよう、意見箱の設置やイベント時のアンケート実施なども検討されたい。

・住民ファーストでありながらも、そこで商いをする者への配慮あるまちづくりを。

#### (意見8)

・多くの住民の意見を参考に調査業務を進めていただきたい。

#### (意見9)

・ハード整備は住民ではできないため、行政がプランを作り、それに従って整備を進めてもらい、整

備中にソフト体制を整える事が必要。

#### (意見10)

・中長期的には金剛駅前、金剛ショッピングモール、及び銀座街商店街周辺の商業施設の拡充が必須と思われる。現状、金剛ショッピングモールが商業施設の中核となっているが、規模・業種ともに十分でなく、近隣住民においても大阪狭山市や金剛東地区での購買が多いと思われる。旧ピュア金剛の再開発を、商業施設も視野に入れて検討することが必須。

## 2. その他

協議会の組織体制については、現状のままで特に問題なく、引き続き、委員、及び構成団体・事業者として、ご参画いただける旨のご意見を多数いただきましたいただきました。

(その他) ※まちづくりの進め方におけるご意見等。

#### (意見1)

・現状の議論では、ソフト的な取り組み(目先のこと)が中心となっている。今お住いの人(特に高齢者)をターゲットとした、ソフト的なまちづくりも大切だが、地区活性化のためには、流入人口を増やすことも重要であり、ソフト・ハード両面からのアプローチが必要。

・そのためには用途変更、民間事業者との連携、民間活力の導入を進め、都市空間の再編を図る必要がある。

・市内(特に中小企業団地)には、外国人労働者が数千人単位で就労しており、その多くは市外に居住している。人口増加の視点では、多くの外国人に金剛地区に住んでいただけるような取り組みも、今後必要となる。

#### (意見2)

・まちづくりの方向性が金剛地区の活性化という観点からみると、現在の居住者からの視点で見た要望・要求等が多い気がする。外部から見て魅力ある地区にするという視点をもう少し考えた方が良い。高齢者に住みよいまちとしての魅力づくりや子育て世代の環境の良さなど、積極的にアピールできる点を外部に情報発信する必要がある。

#### (意見3)

・富田林市では増進型地域福祉の取り組みが今年度から本格化するが、そこうまく擦り合わせて、相乗効果が生まれるような取組ができれば良いと考える。

・近年のまちづくりにおいては、様々な分野の課題が複雑に重複しているが、その課題をどのように乗り越えられるかのモデルを金剛で示せれば良い。

・(1)で示す組織体制のあり方にある、「特に部会として組織化する必要はないのでは」という意見などもここにかかわってくると思う。

・中・長期的なまちづくりに関しても、本協議会において、どのようなまちにするのかを、ハードとソフトの両方からポジティブに(増進型で)話し合えることが基礎になる。

以上